

ショートコメント vol.417 (2026 年 9 月 29 日)

テーマ：「中国以外の訪日客」に立ち込める暗雲

～足元で減速する欧米。韓香台の増加ではカバーしきれず～

●足元の訪日客の動き

観光庁の発表によると、直近8月の訪日客の動きは前年比で9.6%の減少となった（図表1）。

前年割れとなるのは今年に入って4度目とあって、全体としては芳しくない動きが続いている。その要因はもちろん中国の減少が中心であり、実際に中国の動きは直近で59%の減少。つまり前年の4割程度の水準にとどまる。

渡航自粛の動きが続く中、中国からの旅行は大幅に減少しており、ここ5か月は前年比で55～60%程度の減少が続く形となっている。

●中国を除く推移

一方、中国を除いた推移をみると、前年を上回る動きが続いている（図表2）。直近も前年比で11.2%の増加となっており、好調を維持しているといつてよい

こうした動きをみる限り、中国人客の減少で全体的には前年割れ傾向にあるものの、殊更に悲観する必要はないようにみえる。実際に、長引く物価の上昇で日本人の消費が停滞する中、様々な業界でインバウンドが需要を下支えする形となっている。

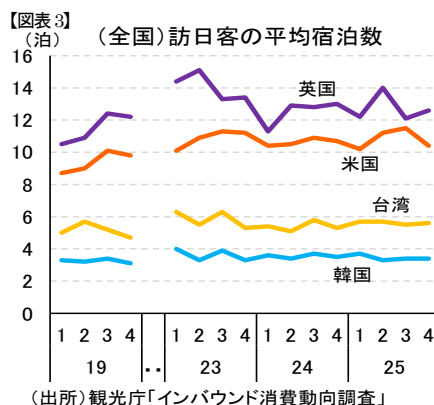
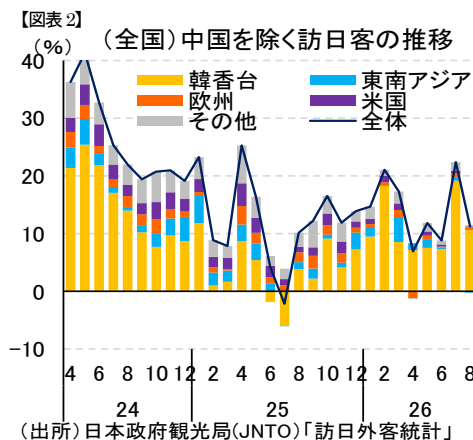
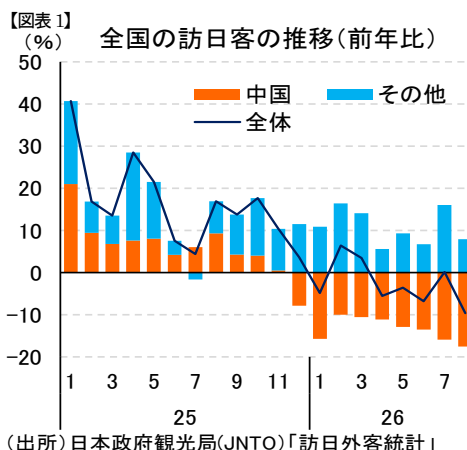
ただ、改めて図表2をみると、国や地域別の内訳に変化がみられる。これまで増加が目立っていた欧州や米国の増加幅が縮小し、直近数か月は増加の大半を韓香台が占めている。変化のタイミングとしては、中東情勢の影響が本格的に出始めた4月以降であることから、燃油サーチャージの高騰などによる渡航費の上昇や、中東経由の路線の減便が響いたとみられる。

その点、韓香台は日本との距離が近い分、その影響が小さいほか、このところの円安傾向もプラスに働いたとみられる。

●強まる韓香台への依存

こうした傾向は、仮に何らかの要因で韓香台が失速すれば、インバウンド全体の動きも一気に悪化することを意味する。それだけ不安定感が強まっていると考えれば、足元の状況は決して楽観できない。

また消費の観点からみても、日本での滞在期間が長く、消費額も多い欧米が減速する意味合いは大きい（図表3）。人数の上



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

では韓香台がカバーできて、基本的には短期旅行が中心であるため、訪日客消費全体への影響は免れない。

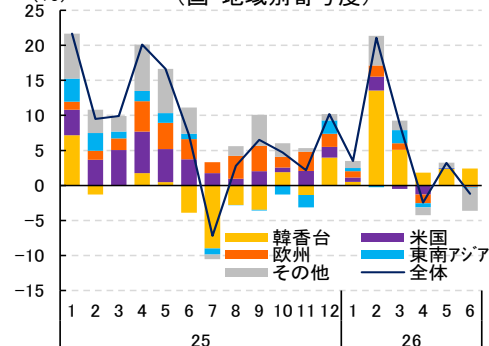
特にホテル需要については、韓香台は短期旅行が中心であることを受け、訪日客数の推移以上に減速感が強まっているのが現状である。実際に訪日客全体はもちろん、中国を除く推移でも前年割れとなるなど厳しい状況となっている（図表4）。

こうしてみると、中国の渡航自粛が続く中でも、堅調な推移が続いている印象のあるインバウンド市場であるが、内実としては不安定感が強まっている点は否めない。

先行きについても、韓香台の増加が中心という点で、アジア経済の趨勢に左右されざるを得ず、中国の景気停滞が長引く中、決して楽観は許されない。

【図表4】

中国を除いた訪日客の延べ宿泊者数の推移
（国・地域別寄与度）



（出所）観光庁「宿泊旅行統計調査」

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。